

まとめと要望

今回実施した受験生と教員に対するアンケート調査を、本委員会としては以下のようにまとめた。

1. 第 104 回医師国家試験に関して、評価できる点として以下のものがあげられる。
 - 1) 試験時間割の事前通知、全試験問題とその正解、不適切問題の取り扱い、等の情報公開が継続され、国試の透明性が維持されている。
 - 2) 臨床実習の成果を問う問題を出題するための努力が認められる。
 - 3) 採点に際して、難問、設問や選択肢が適切でない問題、等が受験生に不利にならないよう配慮されている。
 - 4) 国家試験の成績が在学中の学業成績と相関している。
 - 5) 概ね良好な受験環境が用意されている。
2. 第 104 回医師国家試験に関して、更に改善すべき点として以下のものがあげられる。
 - 1) 採点除外、複数正解など、特別な取り扱いをすることになった問題が 19 問と過去最多であった。特に、80%以上正解することが合格の絶対条件となる必修問題に、「必修問題としてふさわしくない問題」が多数出題された。
 - 2) 合格率が 89.2%と、ここ 10 年間で 4 番目に低い合格率であり、909 人の不合格者を出した。
 - 3) 知識を問う問題を中心として 3 日間で 500 問が出題される試験形態は、医学部 6 年生にとって大きな負担になっており、卒前教育における臨床実習を充実させる上で、障壁になっている。
3. 医師国家試験について、以下の点を要望したい。
 - 1) 資格認定試験として適切かつ良質な問題を出題するよう、一層の努力をお願いしたい。
 - 2) 試験に関連する情報の公開を継続していただきたい。
 - 3) 卒前教育において充実した臨床実習を実施できるよう、医師国家試験のあり方を根本的に見直していただきたい。
- 4) 上記のため、卒前および卒後の一貫した医学教育の中に医師国家試験が位置付けられるよう、文部科学省、厚生労働省、および全国医学部長病院長会議が一体となって新たな医師国家試験のあり方を構築していただきたい。

おわりに

第 104 回医師国家試験は、現在のガイドラインに則って行われた 2 回目の試験であった。合格率は過去 10 年間で 4 番目に低く、909 名の不合格者を出した。また、必修問題を中心に、採点除外、複数正解など、採点上特別な取り扱いをされる問題が過去最高の 19 問となった。これらのことを反映して、学生の満足度は、昨年、一昨年より低下した。教員の満足度も同様の結果であった。一方、問題の内容については、臨床実習の成果が反映される問題の出題が増えている点について、学生、教官(員)ともにポジティブに評価しているようである。

今回のアンケート調査で特に目立ったのは、国家試験のあり方を見直すべきである、とのご意見を多数いただいた点である。以前から指摘されていたことであるが、最近の医師国家試験は量・質ともに多大となり、学生の負担も大きく、それに対応するために 6 年生の医学教育が影響を受けている現状がある。昨年の 5 月 1 日に医学教育カリキュラム委員会から提示された「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について」において、今後の医学教育の改善を図るための改善

の方向性と講じられるべきさまざまな方策が提言されている。その中の 1 つに、学習効果をいかす多面的な評価システムの確立という項目があり、医師国家試験が臨床能力を適切に評価できるものとするよう強く要請されている。関係機関においては、上記の方策について具体的な検討を直ちに開始していただき、その中で医師国家試験の改善についても速やかに対応していただきたい。

最後に、アンケートにご協力いただいた全国の医学部と医科大学の教職員の方々、受験生諸君、全国医学部長病院長会議の長田正昭事務局長、鳥羽清乃主任、内山真記局員、アンケートの集計を担当した埼玉医科大学医学教育センターの斉藤恵助手、興版社の高橋満氏に感謝申し上げたい。